

三月に思う

今年もまた三月を迎え、教師というものは、いろいろの心の動きをひしひしと感じます。幼児期を終えてその上の社会へ進む、幼児たちは、日ごろ私どもが考えに考えた幼児教育を一応卒業して、その幼児教育を身につけて次の社会へ進むのです。

三月がきて卒業させる幼児だから、こういう保育だ、ということはないと思います。

四月、入園してお互いにはにかみあいながら出発したあの時と、三月、万感もごもで送る時まで同じ保育です。その中行なわれる教師の指導、行動は違うでしょうが、根本に、底を流れるものは違います。ただ幼児が成長していることは違います。そして幼児のその成長があるために保育も違ってくるでしょう。

四月になれば小学校です。小学校からは子どもたちの生活の

堀合 文子



中に学習ということがはいつてきます。比較的多くの小学校が、現在は机がみな同一の方向にむき、教師が前に立って話をし、指導するという形です。(もちろんこのような形態でないところもあります)

① 「そのような環境にはいつていくので、三月の卒業前の幼児は、あまり遊ばせておくと、学校へいつてその形態にはいれないので、時には一斉に集めてその形態になじむ必要がある。そしてそれが三月卒業前の保育の指導である」

② 「ちっとも集めることをしないで、幼児を大いに遊ばせ、そのような生活の中でいろいろと個人にに応じて指導していくやり方(通称自由保育)だと、小学校へいつて授業になると困りはしませんか」「集まる時も、集まらないし、先生のお話もちついていけないでしょう」

② 「三学期になったら、五歳児は次第に学校形態に移行して幼児をそのような方向にもってゆくべきだ」「これが五歳児三学期のカリキュラムだ」

以上三つの会話や意見は、常識のように、あるいは当然のように、何のふしぎも疑問もなく話されていることだし、また当然考えられる点でしょう。

しかし、五歳児は、二年なり、三年間、幼児教育をされてきた幼児で、その三学期ならば、多少の不足の面もあっても、ある程度、幼児期としては何らかの結果、幼児教育としての結果が出る時期ともいえるでしょう。

自由保育、自由保育という名称がついているように、幼児を幼児たらしめて十分に活動させて、そしてその生活の中で教師が機会をとらえては、三十五人いれば三十五人みな違うのですから、三十五人、一人一人に適切な指導をくりかえしていく、このような生活のくりかえしが、この三月に、この卒業期には、結果としてといえましょうか、幼児の生活の中にあらわれてくるはずで、また幼児一人一人にも何らかの形で、できあがっているはずで、

★ ある三月上旬の二こま

登園時から、それぞれのグループは、昨日の続きをもう始め

ている。一人、友だちが来ないと互いにメンバーを待っている。あき箱のはいつている箱の中を引っかきまわし何か一生懸命考えながらさがしている。

女の人の二、三人のグループは、おえかきの帳面にたのしそうに絵をかきながら遊んでいる。

幼「先生レコードかけて」

先「何のレコード」

幼「シンデレラ」 (レコードをかける)

シンデレラ始まる

幼「かわりばんにシンデレラになりましたようね」

何か紙と鉛筆を持ってきてかき出す。みんなまわりに集まる。

シンデレラになる順番をきめたい。一番目、二番目、三番

目と……。

幼「妖精が一人たりない」○子ちゃん妖精になって」 交渉なり

たったらしい。

いきなり男の人の方へかけていったら、○夫ちゃんをつれてきた。王子様の交渉がなりたったらしい。

いよいよシンデレラひめの始まり。

曲は順次進行。だいぶ前から劇遊びをして遊んでいたが、もう役割の分担や、そのものになりきっての表現は、教師もびつくりするくらいになった。服装も、何かあるものでそれを適材

適所に使ってやっている。たりないものは、いそいそと紙で作っている。

幼「先生、馬車がたりないの、なって」

教師も他の人の指導をやめて馬車になる。

それぞれの役割を実に満足げに熱心に行っている。

外で遊んでいる幼児も、室内の幼児も、それぞれの場面で、たとえ小さくてもその人なりの力を充分發揮して、実にたのしそうに、それぞれの遊びに没頭し、満喫して生活している。けんかになりそうになっても、いつしか話合いになって解決したり、*「あ、ごめんね」*、*「あ、ごめんさい」*こんなことも板についてたという所です。

親が我子を、*「大きくなったものだ」*とつくづく感じるようなもので、教師よりはるかに大きい（精神的に）、と思われる時もあるくらいです。

こんな幼児が五歳の三学期でしよう。

幼児の成長と共に、幼児の教育の面も、いろいろな場面であらわしてくれるので、教師の顔と心は笑み満々な時期ではないでしょう。こんなことも、ああよかった、と心配していた面もどうやらと安心するのもこの時期でしょう。それと同時に、二年、三年経過してきた教師の努力は、幼児たちを離したく

い、小学校へあげたくないとの状態にかえてしまいます。教師だけでなく幼児でもないでしょうか。

教師は……………。

残り少なくなっていく日数をかぞえながら、教師はどうしたらよいでしょう。教師だって個性があり、みな違う人間です。幼児との心のふれあいはみな、ちがうでしょう。

前述のように、この時とばかりに学校形態の訓練をする必要もないでしょう。むしろ、二年、三年の間、自由のびのびと幼児の生活を十分にさせながらその中で指導してきたならば、今さら、ここへきて、ある時間じつとさせたり、集団訓練的なことをしなくても、充分にその能力はできてはいるはず。日ごろの遊びの中の指導、いろいろの繰返し、の指導、が一見、遊び放題のようにみえても、その中で育ってきたものは、育ってきた能力は、学校形態にはいれば、学校形態に順応し、静かにすべき時はちゃんと静かにし、また必要に応じて判断して行動し、授業もやる時は一生懸命集中してやるだけの力はもう、できてはいるはず。

幼児期というものを充分に、幼児の仕事である「遊び」を満喫しているので、学校へ行って、授業中にはかえって静かに行儀よくできるでしょう。それが、幼児期に常に集団行動のくりかえしをしていると、単なる習慣として集団行動が身についた

だけで、その中に育成されたものは、「先生のいうとおり」だけです。これは一見よいようでしょうが、幼児自身の考える力や創造性が養われなかったり、自発性がないと、生気のない、いきいきと活動的な頭の働きも行動もとれない幼児になうていでしょ。

いろいろと、幼児がする技術とか、知識的なことをたくさん教師の方から与えてあげれば安心ではなく、かえって学習のじまになるのではないのでしょうか。自分は、「ああやった、ああ幼稚園でやって知っている。そんなことは知っている」というと、幼児の興味や、注意力、集中力は授業に集中しないで、その時の他のこと、それがいたずらになったり、またばやーっとになったり、人によって違いますが、こんな形にあらわれてしまいます。たとえ、表面おとなしく聞いているようでも、小学校の先生のおっしゃるとおりしか受取ってこなかったり、低学年の時はそれで通っても、いざ、自分で考えて処理したり、勉強したりしなければならぬ時期に、その人の力がでないことになります。せっかくもって生まれた能力も出せないのです。

幼稚園の先生は、ベテランならベテランほど、じょうずに指導し、教師もたくさんよいことを指導し与えてきたと思います。が、果たしてそれが小学校へ行って、本当にその人が生かされるだけの力を養ったかどうか、うっかりすると知識や表面の能

力だけで、教師は満足しても中味のないからっぽの幼児を育ててしまっているのではないのでしょうか。

二年間、三年間いかに幼児を指導してきたかによって、今の三月に、何らかの形で、幼児の顔にも、その教師の評価はでてくるのではないのでしょうか。よい保育の積みかさねです。

一時たりとも、一瞬たりとも、一人でもみのがしてはなりません。また一人でも幼児の心を一瞬もおろそかに扱ってはなりません。その場、その時、その瞬間に、教育の場、指導の場があったのです。その成果ともいましょうか。自由な保育の一つともいえます。二年間、あるいは三年間の幼児の姿なのです。教師の指導の積みかさねがものをいう時です。

この三月は幼児の成長を喜びつつ、幼児と想う存分遊んであげましょう。たのしく、よりよく、たのしい思出をつくるために。そして、その中でみつけた、注意すべき点、指導すべき点、幼児が忘れた点など。あら、忘れちゃったわね。この方がよいわね。と、うながしてあげましょう。こんな三月が、卒業期をひかえた毎日でしょう。

入園時から、幼児を幼児として充分生かして生活させることが大切で、その点で幼児の中には大きな差ができてしまうものこの時ですね。そしてこの時こそ、教師が自分の道をふりかえる時であるでしょう。

(お茶の水女子大学附属幼稚園)